

# 第3学年「きつつきの商売」指導事例

指導時期  
作成者

令和3年 4月  
菅野 清徳

## 1. 単元名「きつつきの商売」

## 2. 単元の目標

- (1) 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。
- (2) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。

## 3. 単元の指導計画（全8時間）

時数	目 標	学 習 内 容
1	・ 題名やリード文から物語の内容を想像する。 ・ 学習課題を設定し、学習計画を立てる。	① 登場人物や場面設定などあらすじをつかませる。 ② 学習の見通しを持たせる。
2	・ 二つの場面を比べながら登場人物や描かれている様子について整理する。	① 番所を通して、「1」の場面と「2」の場面对比的に捉えられるようにする。
3 (本時)	・ 好きな場面をえらんで、登場人物の行動や描かれている様子などを想像しながら音読する。	① 互いに音読を聞き合うことで想像を広げる。
4	・ きつつきが聞かせた音はどのような音だったのか、具体的に想像する。	① 前後の叙述に着目した後で、どう音読するかを考えることで、自分の考えを表現させる。
5	・ 「1」の場面を読み、音を聞いたときの登場人物の気持ちを想像し、考えたことについて話し合う。	① 叙述に着目する手立てとして、あえて間違った本文カードを用意し、児童に間違いを指摘させ、本文の表現の良さについて考えさせる。
6	・ 「2」の場面を読み、音を聞いたときの登場人物の気持ちを想像し、考えたことについて話し合う。	① 第5時と同様に考えさせる。
7 (本時)	・ 「きつつきの商売」の「3」の場面を作り、友達と紹介し合う。	① 友達の発表に対する感想を全体でも共有する。
8	・ 単元の学習を振り返る。	① P27「ふりかえろう」やP28「たいせつ」を活用する。また、「この本、読もう」で読書へのつなげ方や読書記録のつけ方を知る。

## 4. 本時について

### (1) 本時の目標

「きつつきの商売」の「3」の場面を作り、友達と紹介し合う。

(2) 本時の展開 (7 / 8 時)

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点
導入	1. 学習課題を確認する。		
	「きつつきの商売」の「3」の場面を作り、友達に伝えよう。		
展開	2. P27を見て見通しを持つ  3. 「3」の場面を書く	○例を紹介する 登場人物～きつつき、たぬき 場所や天気など～森のおく、 明るい月夜 音～木をたたく、元気な、「 コツコツ」という音 出来事など～音を聞いていた たぬきたちが、楽しくなっ ておどりだす。  ○ワークシートをもとにしな がら、設定を考えてから書 かせる	「登場人物」「場 所や天気など」「 音」「出来事など 」といった項目で 考える
まとめ	4. 児童の作品を紹介し、次時に つなげる。	○秀逸なものを取り上げ、紹 介する。	

5. 資料 子どもたちが作成した物語

①きつつきのお店ににわたりの家ぞくがやってきました。にわたりの家ぞくはぜんぜん食べれるものがありました。にわたりの子どもの四匹のひよこがいっせいに「これにしようよ。」とメニューを見ながら言いました。にわたりのお父さんとお母さんはいっせいに「いいね。」と言いました。えらんだのはりんごの木の音です。「四分音ぷ分、ちょうだい。」「しょうちしました。では、こちらへ。」きつつきはにわたりの家ぞくをつれてりんごの木の前につききました。にわたりの家ぞくを一行にそろえて、きつつきはりんごの木のてっぺん近くのみきにとまりました。「さあ、いいですか。」きつつきが言いました。にわたりの家ぞくはいっせいに「いいですよ。」と言いました。きつつきは、りんごの木を全力でたたきました。コンコンコン、ゴロゴロゴロ。りんごの木の音は森じゅうにひびきました。そしてりんごの木からりんごがおちてきました。にわたりの家ぞくはりんごをとりはじめました。そして四分音ぷ分たったので音をならすのをやめました。にわたりの家ぞくはきつつきに百リルではなく二百リルあげました。にわたりの家ぞくはにこにこまんぞくしながら帰っていきました。

②店にもどって数分後、きつつきの兄がきて「ゆうじょうの木の音を聞かせてくれ」と言いました。ゆうじょうの木につれていく途中、「ひさしぶりだね」ときつつきが言いました。兄は「また会えてよかった」と言いました。ゆうじょうの木につくと、ドキドキしながら音をならしました。いろいろな音が聞こえました。「じつはおれ、ひっこすんだ。」と兄が言いました。「え、そうなの。」ときつつきはかなしそうなかおで言いました。「また会えたらいいね。」ときつつきが言いました。ゆうじょうの木の音を聞きながら、きつつきの兄ははばたいていきました。

③とくとくとくべつメニューの雨の音がやみました。ねずみの家ぞくが帰った後はもう夜でした。きつつきがもりのおくにいくと、うさぎが四ひき、きつつきのうしろにきました。「なにしているんですか、きつつきさん。」「こんばんは、きつつきさん。」月が見えます。まん月です。まん月の下で、きつつきが木をたたきました。「ゴーン。」という音が森じゅうにひろがりました。うわぎたちはびよんびよんはねました。森のどうぶつたちもその様子を見ていました。

## 6. 指導の記録

- (1) 続き話をつくるという活動をする前に、本文をしっかり読むことが大切であることを伝えていた。「1」「2」場面をよく読み、参考にしながら続き話をつくることができていた。
- (2) 指導書では「登場人物」「場所や天気など」「音」「出来事など」の4点を考えるだけだが、アイデアあふれる子どもたちの考えや物語が知りたいと思い、実際に考えた物語を書くことにした。書くことが難しい児童でも、数行は書くことができたため、設定にとどまらず、物語を書くことにもチャレンジさせてもよいと感じた。
- (3) 交流がコロナ禍のため積極的に行うことができなかったため、コロナ禍でどのように交流をすればよいか、アイデアが欲しいと思った。この単元では、こちらからピックアップした物語を全体で教師が読むことを交流とした。